臨床・教育ボランティア

オーガナイザー

教育研究開発センター　教授　村田顕也

I. 授業の目的

臨床や教育のボランティアを介して、コミュニケーションや患者の方々の気持ちを理解し、ケアマインドを養う。

II. 到達目標

1．小児とコミュニケーションがとれる。
2．高齢者とコミュニケーションがとれる。
3．病める人の心に共感できる。
4．エスコートができる。
5．教育のためのボランティアができる。

III. 教育内容

1．緩和ケア病棟でのボランティア
2．観光医学でのボランティア
3．オープンキャンパスでのボランティア
4．共用試験 OSCE での模擬患者
5．小児科病棟でのボランティア
6．救急蘇生（BLS,ACLS）実習での介助ボランティア
7．病院内エスコート
8．その他、大学が認めたもの

IV. 教育方法

1．ボランティアを行うものは事前に学生課に申請書を提出し、登録する。
2．ボランティアの期間は、カリキュラム上のボランティア期間および講義・実習の時間外および休校日とする。

V. 評価の方法

参加の多い学生については、顕彰する機会を設ける。